



〒344-0001  
埼玉県春日部市不動院野1112-1  
TEL048-760-1200  
FAX048-760-1201  
https://www.saintnoah-kasukabe.jp



### 初詣 初詣・餅つき・獅子舞



#### ～目次～

- 病院短信
  - 日常の一コマ
  - いきいき看護・介護
  - 薬剤科だより
  - 初詣・獅子舞
  - スタッフ紹介
- 高野 正孝
  - 恩田 律子
  - 望月 米子
  - 鯉淵 直子
  - 病棟デイルーム
  - 笹瀬 英子

### 2月の予定

#### ◇誕生日会&節分

1病棟	2月 5日 (月)
2病棟	2月 2日 (金)
3病棟	2月 6日 (火)
各病棟デイルーム 14:00~	



### スタッフ紹介

1病棟 介護福祉士  
ささせ えいこ  
笹瀬 英子

休日の過ごし方：昼呑み  
好きな飲み物：ビール  
得意料理：グラタン



私は上野公園が大好きです。先日  
も上野東照宮で初参りをし  
て、美術館でモネ展を観てき  
ました。そして大好きなお酒と食  
事を楽しんできました。3月  
になると桜が咲きますので、お花  
見がてらお散歩をして、美味し  
いお酒とおつまみの発見が出来  
たら最高です。



# 病院短信

## 認知症のホスピスケア

医師 高野 正孝

私は1990年代に瓦井事務局長と、関東初のホスピス病棟を2か所に造りました。そして今は、この春日部セントノア病院で働いています。当院では昨年7月から、2006年のオープン以来といえる業務の見直しを行なっています。患者さんのQOL（生活の質）向上を図るのが目的です。そこで認知症のホスピスケア（緩和ケア）について、私の知るところを述べてみます。

ホスピスケアの特徴は、①「人間の尊厳」を大切に、②苦痛などの症状を緩和する、③QOL（生活の質）を大切に、が挙げられます。

①「人間の尊厳」を大切に  
 ホスピスの先駆者山崎章郎医師は、「患者の自立を支え、尊厳を守る事が、ホスピスケアの基本である」と述べています。たとえ認知症となつて知的機能が障害されても、何ら「人間の尊厳」が毀損されることはありません。そういう認識を私たちは持つていなければなりません。

②症状を緩和する  
 不穏や徘徊、うつなどの周辺症状は、精神的に緩和します。さらに入院生活で転倒して骨折したり、食事の誤嚥で肺炎を起したりすれば、内科的、外科的に治療します。認知症が高度に進行すると、終末期に入ります。終末期は、『コミュニケーションがまったく成立しなくなったとき』、『食事の経口摂取がまったくできなくなったとき』をいっています。終末期では、なるべく自然の生命力を大切に、無理な延命を避けることがベターと考へられています。死に行く時の苦しみが非常に強い時は、モルヒネを使うこともあります。

### ③QOLを大切に

QOLは、Quality of Life（生活の質）の略です。「QOLを大切に」は、延命という生命の量的な側面より、質的なものを大切にしようというものです。ホスピスケアの主たる目的はここにあり、この度の業務見直しも、このQOL向上に目標があります。そのため、限られたマンパワーと時間をいかに適正に配分するかが鍵となります。認知症患者さんのQOLを知ることは難しい課題です。しっかりと観察しないとサポートはできません。リハビリ室やホールでは、作業療法や月例の誕生会、スタッフが考案したゲームなどを、みんなでやっています。毎日午後には、各病棟が順番に、1階ホールでおやつタイムを持っています。いろいろ工夫を凝らして、楽しい生活の場となるように努力しています。

適切なホスピスケアを実現するには、キュア（治療）とケア（看護・介護）が、並列でなければなりません。一般病院の治療病棟は、トップにいる医師の指示のもとにケアが動くピラミッド型です。ホスピス病棟はケアが中心ですから、キュアとケアの合意で行う並列型が大切だと私は考えています。

この度の業務見直しは、今までどこもやったことがない医療の挑戦です。職員全員で知恵を出し合って、実りあるものにしてほしいと思っています。



# 日常の一コマ

今月は3病棟の眞佐子さん（74歳）をご紹介します。埼玉県で4人兄弟の4番目として生まれた眞佐さんは、高校卒業後はパートに勤務され、23歳で結婚、2人のお子さんに恵まれました。その後、定年まで仕事を続ける一方、スポーツジムで水泳やヨガを楽しむなど、とてもアクティブに過ごしていたそうです。平成30年頃から少しずつ物忘れが始まり、待ち合わせの時間を何回も間違えたり、頻繁に物を失くしたりするようになりました。そのうち、日付や曜日もわからなくなってしまったため、精神科クリニックを受診したところ、アルツハイマー型認知症と診断されたそうです。令和3年頃になると、自宅と間違えて他人の家に入って警察沙汰になってしまったり、夜中に外に出て徘徊している時に転倒して救急車で搬送されたりと、症状はさらに深刻化していきました。自宅での生活は限界だったため、高齢者医療センターに入院することとなりましたが、入院した後も眞佐さんが落ち着くことはありませんでした。車いすから急に立ち上がっては歩き出したり、ケアへの協力が得られず抵抗も強かったりと、もう少し長期的な療養が必要と判断されたため、令和4年3月、当院に入院されました。



当院入院後の眞佐さんは、やはり車イスに座っていただけで、すぐに歩こうとしていました。それならば歩いてもらおう、としましたが、ふらつきが強く歩行が不安定なので一人では歩けません。そこで、眞佐さんが歩き出した時は2人のスタッフが両サイドから身体を支えて、ご本人の歩きたい方向と一緒に歩くようにしました。長い距離は歩行できずに短い距離だけでしたが、頻回に歩いていらっやいました。そして、急に立ち上がった時に倒れないよう、必ず眞佐さんの隣に付き添って常に話しかけるようにしました。すると眞佐さんは「おおさか、たこやき、おいしいわよ」など話をして下さるので！単語を並べた話し方ではありますが、その一生懸命に話そうとしてくれる姿がとても愛らしくて、思わず私たちも笑顔になってしまいました。



最近の眞佐さんは、車いすからの立ち上がりの回数も減ってきました。そして、立ち上がった時でもすぐに駆け寄れる距離で見守っています。入院時より落ち着いてきたのは、眞佐さんが私たちスタッフを含めたこの環境に慣れてくれて、安心して過ごせるようになったからでしょう。これからも眞佐さんが穏やかに過ごしていけるように頑張っていきたいと思います。

3病棟 看護副主任 恩田 律子

## 薬剤科 だより

薬剤師 鯉淵 直子

クスリは温度・湿度・光などの影響を受けやすく、有効成分が変化して効果が低下したり、変質してしまう場合があります。クスリの保管方法として、保存温度には特に注意しなければなりません。

「日本薬局方」では、「冷所保存：1～15℃以下」「室温保存：1～30℃」「常温保存：15～25℃」と定められています。多くの冷所保存の医薬品は、「2～8℃」で保管するよう規定されているため、当院では「4～5℃」で保管できる冷蔵庫で管理しています。

冷所保存の必要な水薬や坐薬、インスリンなどを家庭で保管する場合、多くは冷蔵庫を使用しますが、冷蔵庫の中でクスリが凍らないように保存してください。また、カプセルや錠剤、散剤などを冷蔵庫で保管すると、結露などの湿気により効力を低下させてしまうこともあり、適していません。使いかけのペン型インスリン製剤も、結露を避けるため冷蔵庫には入れないでください。多くのクスリは室温で保存しますが、乾燥材を入れた缶などに入れて、直射日光が当たらず、湿気の少ない涼しい場所に保存しましょう。飲みグスリは、体の中で溶けるように作られていますので、少量の水分でも柔らかくなったり変質したりします。工夫しながら最適な保存場所を選んでください。

## いきいき看護・介護

1病棟 介護福祉士 望月 米子

2月と言えば立春の季節ですね。行事としてはバレンタインデーや節分があります。そして頭の中に思い浮かぶのは：チョコレートや福豆、恵方巻などなど。美味しいものが次々と連想されます。

また、2月の花で思い出されるのは、梅・クロッカス・水仙・菜の花・福寿草などでしょうか。キレイに咲いているお花を想像すると、長い冬も終わりを迎えて、もうじき春が来るのかなと思えてきます。

暖かくなるのは嬉しいのですが、春になると花粉症が猛威を振ります。スギ花粉以外にも様々な原因により引き起こされませんが、私も花粉症に罹る一人ですので、毎年この季節が来るのが少し怖いです。

ご家族の皆様も花粉症に対する予防や対策を万全に、また、まだまだ寒い日が続きますので、風邪を引かないよう気を付けましょう。「風邪は万病のもと」ですからね。

